電気設備工事特記仕様書

A 建築工事概要

工事名称	
工事場所	
主体構造	RC ~~SRC SC S~~
延面積	964.9 M^2
階数	地下 0 階 地上 2 階 RF

B 共通仕様

1 一般事項

1 本工事は上記建築工事概要に伴う電気設備工事を施工するもので、本設計図、特記仕様書に依り施工すると共に電気設備工事技術基準、建築基準法、消防法、電力会社内線規程、その他工事関係諸規程に基く他、建設省営繕局、電気設備工事共通仕様書に依り、係員の指示に従って安全、かつ完全に施工の事

2 本設計図の有無にかかわらず、法規上、技術上、又は納まり上当然必要と思われるものは請負金額の増減なく本工事にて処理の事

3 図示の位置は大体を示すものであるから、建築詳細図参照の上、関係者と充分協議を行い施工図を作成し係員の承認後施工の事

4 本工事に必要な官公庁への手続きは請負業者に依って代行処理の事。尚これに伴う費用一切は請負業者にて負担の事

5 本工事は特記なき限り、ビニール絶縁電線（600V）薄鋼電線管に依る配管配線工事とし、電線は色別配線とする

a 電灯コンセント配線	赤 白 黒
b 動力 〃	赤 白 青
c 操作線	黄 —
d その他	係員の指示に依る

6 配線器具及照明器具取付ビスは黄銅製又はステンレス製ビスを使用の事

7 電線相互、器具芯線と電線の接続は肉厚0.8t以上の圧着スリーブを使用の事。原則としてVVF用スリーブは使用しない事

8 配線器具は連用型を、プレートは新金属型を原則とする。尚、取付位置は下記表を原則とする

スイッチ	（器具中心）	床上 1300
コンセント	（ 〃 ）	洋室 床上 300
		和室 〃 150
		作業台上 150
戸口寄り	（ 〃 ）	出入口枠外周縁より 150
相互間	（ 〃 ）	100
		その他、係員に従う事

9 本工事に当り下記必要書類等を係員へ提出の事

- a 工程表
- b 施工図
- c 製作図、承認図、又は、提出見本
- d 工事記録写真
- e 各種検査試験成績表
- f 竣工図
- g 機器取扱い説明書
- h その他係員指示に依る

2 別途工事等

1 電力引込工事及電力会社納入負担金
2 電話架設工事
3 工事項目中施工指定以外の各工事
4 仮設電気設備工事（建築工事に伴う工事）
5 本工事に依り発生したテレビ電波等のビル陰障害に対する近隣補償工事

3 工事区分

	電気	建築	給排水	空調	その他
機械基礎	○				
点検口		○			
貫通補強	○				
天井開口補強	○				
配線用ピット	○				
換気扇	○				
エレベータ電源					
電気室金網					
動力操作盤	○				
冷凍機操作盤					
動力二次側	○				
ボイラー操作盤					
液面リレー	○				

4 機器資材指定

本工事に使用する機器資材は下記メーカー及び係員の承認に依る事。但し設計図中特記あるものについてはそれに依る。尚、製作図、承認図又は提出見本を係員へ提出の事。

電線ケーブル	住友 藤倉 古河 日立 矢崎 タツタ 西日本 大日
パイプ附属品	松下 東芝 日パイ 摂陽 日亜 タチバナ 三星
高圧機器	松下 日新 愛知 大変 中機 ニチエン 三菱 日立
発電機	クボタ ヤンマー ダイハツ ホンダ
蓄電池	日本 古川 松下 湯浅 GS
盤類	松下 川崎 ダイシン 正二 東光 山陽
照明器具	松下 東芝 日立 三菱 岩崎 山田 ヤマギワ
配線器具	松下 東芝 神保 明工 アメリカン
放送機器	松下 東芝 ビクター 東亜 パイオニア
インターホン器具	松下 東芝 岡田 沖 ビクター 東亜
テレビ共聴器具	松下 八木 DX 日本 ホーチキ マスプロ
火災報知機器	ホーチキ 能美 ニッタン 松下
時計機器	松下 服部 TIC
避雷針	日本 大阪

C 工事項目

1 高圧引込及受変電設備

受電電圧 3相3線式 6,600V 60HZ
受電方式 常時1回線
変電室 キュービクル（~~屋内~~、屋外）~~鉄骨フレーム組立~~
変圧器 電灯 計 50 KVA
動力 計 100 KVA
進相コンデンサー 計 30 KVA
配管、配線、機器据付調整までの一切の工事を行う事

2 ~~予備電源設備~~

1 発電機 V KVA
始動方式 手動 電動 圧縮空気
2 蓄電池 アルカリ 鉛
V セル Ah 時間率
充電器 セレン シリコン
交流電源 相 線式 V KVA
配管配線機器取付調整までの一切の工事を行う事

3 幹線動力設備

電灯コンセント幹線 単相 3線式 105, 210V
動力 〃 3相 3線式 210V
操作方式 交流 ~~直流 105V~~ 210V
手動 自動 手元 遠方
配管配線機器接続盤取付調整までの一切の工事とする

4 電灯コンセント設備

電灯回路 105V 210V
コンセント回路 105V 210V
配管配線機器取付調整までの一切の工事を行う

5 電話配管設備

一般電話 ~~ボタン電話 自動交換電話~~
配管ボックス類取付及それらに附帯する工事のみとし呼線挿入までの一切の工事を行う。取付位置は電灯コンセント設備に準ずる。

6 放送設備

増幅器 出力 W 卓上型 ロッカー型 ディスク型
配管配線機器取付調整までの一切の工事を行う事
取付位置は電灯コンセント設備に準ずる
設計図中仕様書に依る

7 インターホン設備

通話方式 親子式 ~~相互式 複合式~~ —
親機 2台
子機 13台
電源 ~~電池 交流~~ 電源部（専用電源部 ）
配管配線機器取付調整までの一切の工事を行う。尚取付位置は電灯コンセント設備に準ずる。

8 テレビ共聴設備

アンテナ VHF 2段 UHF 1段
ブースター 35 dB 1台
配管配線機器取付調整までの一切の工事を行う。尚取付位置は電灯コンセント設備に準ずる。
ラジオアンテナ工事も本工事に含む事

9 火災報知設備

受信盤 P型 2級 5窓
副受信盤 5窓
配管配線器具取付調整までの一切の工事を行う事

10 電気時計設備

親機 壁掛型 ラジオコントロールは水晶発信器
子機 埋込型
配管配線器具取付調整までの一切の工事を行う事

D 凡例

下記に該当しない場合は JIS C0303-74 を参照の事

記号	名称	備考
○	天井灯（容量を傍記）	器具の種類を示す場合は下記に依る ○ 直付又は埋込 ⊘ コード吊 Ⓟ パイプ吊 蛍光灯の場合は下記に依る □○□ 取付方向を示す ▣ 角型蛍光灯を示す
◐	壁付灯	天井灯の摘要を準用する
⊗	不滅又は非常用 天井灯	〃
⊗	〃 壁付灯	〃
⊗	ポール灯	
⊖	コンセント（口数、容量を傍記）	取付位置を示す場合は下記に依る ⊖ 天井付 ⊖ 壁付 ⊖ 床付
●	点滅器（内容を傍記）	3＝3路 4＝4路 A＝自動 R＝リモコン 2P＝両切
⊛	リモコンセレクタースイッチ（局数を傍記）	
▲	リモコンリレー	▲▲▲ 10（集合の場合個数を傍記）
∞	換気扇	種類、大きさを傍記
Ⓜ	モーター、電熱	容量、名称を傍記
WH	積算電力計	
▨	電灯、配分電盤	鋼製メラミン焼付塗装
⊠	動力、配、操作盤	〃
⊟	警報盤	〃
Ⓝ	手元開閉器盤（容量を傍記）	〃
◉LF	フロートレススイッチ	電極数を傍記
◉	一般電話用アウトレット	コンセントの摘要を準用する
Ⓣ	内線電話用 〃	〃
Ⓣ	インターホン親機用 〃	〃
Ⓣ	インターホン子機用 〃	〃
⊠	電話自動交換機	型式等を傍記
▭	ボタン電話主装置	〃
⊟	端子盤（局数を傍記）	鋼製メラミン焼付塗装
IOI	保安器盤（ 〃 ）	〃
NC	ナースコールインターホン 親機	窓数を傍記
Ⓝ	〃 子機	
AMP	増幅器	出力を傍記
Ⓐ	スピーカー（出力を傍記）	Ⓐ 天井付 Ⓐ 壁付
ø	アッテネーター	
○◁	トランペット型スピーカー	出力を傍記
RM	増幅器遠隔操作器	
Ⓙ	ジャック	コンセントの摘要を準用する
◷	親時計	
◷	子時計（内容を傍記）	2.3＝多面 F＝埋込 P＝吊下
⊂⊃	テレビアンテナ	種類を傍記
☐	分岐分配器函	〃
⊖	整合器	末端を傍記 Ω
⊠	火災報知受信盤	内容を傍記
⊞	副受信盤	〃
Ⓟ	発信器	
Ⓑ	ベル	
○	感知器 定温式スポット型	
⊖	〃 差動式 〃	
Ⓢ	〃 イオン化式 〃	
⊠	〃 差動式分布型	集合の場合傍記
◙	回路試験器	
○◁	モーターサイレン	
⅄	避雷針、突針部	内容を傍記
⊕	接地端子	
⏚	接地極	接地種別を傍記
□	プルボックス	寸法を傍記
⊡	ハンドホール	〃

工事名 熊山町 中央公民館 新築
図名 電気設備図

凡例		変更	年 月 日

DATE	CHECK1	CHECK2	TITLE	No.
			熊山公民館解体工事	
No.	PL	DR	NAME 電気設備図 1	SCALE A2版 71% A3版 50%	K—66